有田中央高校での防災教育実践

『ハイスクール防災講座』

防災教育チャレンジプラン

これは、防災教育チャレンジプランの活動のために制作したものです。
なお、防災教育チャレンジプランは、（財）河川環境管理財団の河川整備基金の助成を受けています。

1.『ハイスクール防災講座』の目的

地震・津波発生時に、以下のことができるように、
防災の基礎的な知識を身につけ実習・訓練を受け、
一人ひとりが防災に賢くなるようにすること。
（1）生徒自身が自分の身を守り、生き残ること
（2）困難な中でも他の人々と力を合わせて課題に
立ち向かっていくこと

↓

卒業生は全員が防災に役立つ未来の社会人

２．対象

・３年生全員（４クラス）１０５名

３．『ハイスクール防災講座』の実施期間と回数

・２～３学期

・火曜日（５・６限）総合学習の時間

・授業回数　１４回
（このうち９回は教科の授業）

４．「ハイスクール防災講座」の概要

（１）９教科（社会、理科、保体、芸術、英語、家庭、情報、農業、福祉）と関連した防災の授業・実習・訓練を実施。
（９教科の授業用プリントや資料はクリアブックに保管し、家庭用防災本に）。

（２）授業の合間に、防災教育用ＤＶＤ鑑賞、消防署の協力によるＡＥＤ訓練・起震車体験、また自前のＤＩＧ、防災ゲーム（クロスロード）大会、防災講演会を実施。

（３）生徒は冬季休暇中に課題（地域防災マップ、防災マインドマップ）を作成。

（４）地域の小中学校への防災出前授業、品評会・文化祭での展示や起震車体験などで地域と交流・啓蒙活動。

（５）有田川町役場、ＰＴＡ、本校職員等に講座への参加・見学を募集。

９教科の防災教育実施内容

教　科	時限	授　業　内　容	担　当者	臨時担当者	教室
社会科	５限	①ライフラインの被害想定と 断絶時の対応の学習・考察	木田	（　　）	社会科教室
	６限	①避難と避難所の運営の学習・考察 ②避難カードの作製 ③確認の小テスト		山尾	
理 科	５限	①地震・津波の発生メカニズムと被害の学習 ②マグニチュードと震度の違い について学習	上山	山中 九堀	プログラミング実習室
	６限	①過去の地震の津波浸水図、石碑等の学習 ②ハザードマップ、通学路の危険箇所の地図作製		九堀	
保健体育科	５限	①応急手当訓練 ②搬送訓練 ③災害医療（トリアージ等）について学習	尾白	武野	格技場
	６限	①救出訓練 ②消火器取り扱い訓練			
芸術科（書道）	５限	①防災カルタの作製	森（勝）	上田	書道教室
	６限	①被災地への色紙・手紙作製			

英語科	５限	①災害に関する標語を和英辞典を利用して考察	栗山	北畑	図書館
	６限	②英語の防災情報ポスターの作製		庄田	
家庭科	５限	①建築物の耐震診断・耐震補強の学習 ②牛乳パックで建物補強の実習	川 村（麻）	川 村（雅）	第１被服室
	６限	①家具の転倒防止策の学習・ ②室内の家具の配置についての実習	岩上	川 村（麻）	
情報科	５限	①インターネットを利用して地震・津波情報を検索し、地震発生時の状態を予想（津波シミュレーション等） ②流言、風評被害の学習 と伝言ゲーム	中西	肥田	マルチメディア教室
	６限	①災害時の情報の入手と発信（災害用伝言ダイヤル171等）の学習・実習		森（登）	
農業科	５限	①ロープワークの訓練	岩本	上岡	グリーン講義室
	６限	①非常持ち出し品・保存食品の学習と非常食品の試食 ②救出用器具等の学習と器具取り扱い説明		幾島	
福祉科	５限	①災害弱者対策について学習 ②車椅子を使用しての実習	則村	名原	福祉講義室
	６限	①被災者支援について学習 ②ボランティアと災害心理（PTSD）の学習・考察			

月	日	回数	実　施　内　容（黒：準備、青：授業等）								
１ 学 期			①各教科への資料提供と教材の購入、各教科における授業内容検討等 ②有田川町消防署へAED訓練、１１月の品文祭での起震車体験の打診と依頼 ③教職員への防災アンケート調査・集計→教職員防災研修の講師選定 ④和歌山県総合防災課へ講演会の依頼分提出 ⑤小学校へ出前授業の打診（１校） ⑥授業の評価等の検討								
夏期 休暇			①９教科の担当者の教材作成・相互チェック、教材の購入等 ②教職員防災研修　（和歌山県総合防災課の講演会と防災教育担当者へのDIG） ③教職員防災研修（ハイスクール防災講座の具体的説明、DVDの部分的鑑賞）								
９ 月			①有田川町消防署へAED訓練、１１月の品文祭での起震車体験の依頼文提出 ②外部向け「ハイスクール防災講座」の案内冊子作成								
	２	１	①防災教育用ＤＶＤ（３０分）鑑賞と防災学習の意義・実施内容等の説明会 ②生徒用地震防災アンケート実施								
	９	２	社会科	理科	保体科	芸術科	英語科	家庭科	情報科	農業科	福祉科
			1班	2班	3班	4班	5班	6班	7班	8班	9班
	１６	３	9班	1班	2班	3班	4班	5班	6班	7班	8班
	３０	４	8班	9班	1班	2班	3班	4班	5班	6班	7 班
１０ 月			①有田川町消防署とＡＥＤ訓練の打ち合せ ②ＤＩＧの準備								
	１４	５	7班	8班	9班	1班	2班	3班	4班	5班	6班
	２１	６	ＡＥＤ訓練				ＤＩＧ				
	２８	７	ＤＩＧ				ＡＥＤ訓練／震災体験文集学習等				
１１ 月			①有田川町役場・教育委員会訪問、「ハイスクール防災講座」の内容・日程の連絡と授業見学の案内、協力依頼等 ②小中学校訪問、出前授業の打診（各１校） ③小中学校へ品評会・文化祭での起震車体験等の案内								

月	日	回数	実　施　内　容（黒：準備、青：授業等、紫：未実施）								
１１月	４	8	6班	7班	8班	9班	1班	2班	3班	4班	5班
	１１	9	5班	6班	7班	8班	9班	1班	2班	3班	4班
	１６		品評会・文化祭での展示・起震車体験								
	２５	10	4班	5班	6班	7班	8班	9班	1班	2班	3班
１２月			①冬季休暇中の課題準備 ②諏訪先生へ講演の打診と依頼 ③有田川町役場より防災担当者が授業見学に来校 ④ＰＴＡ役員に外部向け「ハイスクール防災講座」の案内冊子配布								
	９	11	3班	4班	5班	6班	7班	8班	9班	1班	2班
	１６	12	2班	3班	4班	5班	6班	7班	8班	9班	1班
冬期休暇			学校指定の課題　①居住地域の防災マップ作成 ②防災マインドマップ作成								
１月	１３	13	①冬季休暇中に作成した課題の提出 ②クロスロード大会（防災カルタ・防災すごろく「大なまじん」の紹介） ③兵庫県立舞子高等学校環境防災科　科長　諏訪清二先生の講演会 ③アンケート								
	(28)	14	①冬季休暇中の課題の評価と返却、授業での作品等の返却 ②「ハイスクール防災講座」に関するアンケート ③代表生徒と出前授業の打ち合せ・教材作成								
２月			①職員の出前授業の打ち合せ・準備 ②「ハイスクール防災講座」に関する職員アンケート								
	３ １０ ２７		小学校への出前授業（参加生徒７名） 中学校への出前授業（参加生徒１１名） 優秀な個人の表彰や優れた作品・レポート等の紹介・講評								

社会科Ⅰ　　地震の被害と避難

達成目標：地震が起こった場合にどのような被害が予想されるのかを知り、地震発生直後から避難所生活に至るまでどんなことに注意して行動すればよいのかを考えさせる。

授業内容：

①地震の被害について学ぶ

阪神大震災、新潟中越地震、奥尻島の地震を参考にその時、どんな事が起きたのか。当時のドキュメンタリービデオを見ながらみんなで話しあった。

②自分がその時どう行動するか考える

地震発生直後、あなたがすべきことは何？

安全に避難するには？

避難所、あなたはどう過ごす？

この3点についてイラストを参考に考えた。

社会科Ⅱ　　地震の被害と避難

成果と課題：

【成果】地震発生後にどのような行動をすればよいかについて一定の理解が得られた。
【課題】授業内容に多くのものを盛り込んだために、少し時間が足りないグループがあった。内容の精選が次回の課題である。

苦労・工夫した点：

「一方的にこちらが生徒に知識を与える」という形式の授業にしないために、イラストを参考に一緒に考えると言うかたちにした。また最後にテストを実施することによって確実な知識の定着を目指した。

担当者：木田　誠治

理科Ⅰ

①地震・津波の発生メカニズムと被害の学習
②マグニチュードと震度の違い等についての学習

目標：次の内容についての理解

- ●地震・津波の発生メカニズムと被害
- ●東南海・南海地震発生時の地震の震度・被害予測
- ●津波の到達時間・高さの予測
- ●マグニチュードと震度の違い等

実践内容

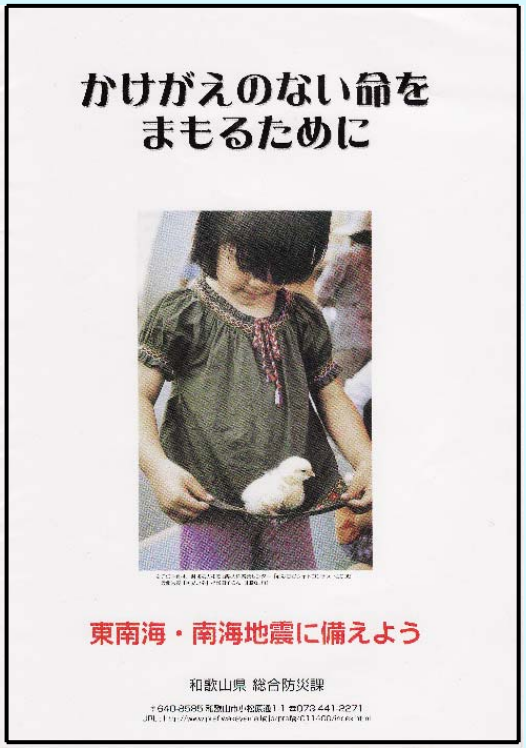
- ●目標の内容をＰＰＴとリーフレット「かけがえのない命をまもるために」を用いて説明
- ●プリント「学習のポイント」で要点のまとめ

成果：メカニズム等について一定の理解

課題：受け身傾向、自己の体験談の挿入

工夫した点

- ●被害をリアルに伝えること
- ●「学習のポイント」となる言葉をプリントに記入させまとめとした



担当者：上山容江

理科Ⅱ

①ハザードマップ、過去の地震の津波浸水図の学習
②通学路の危険箇所の地図作成

目標：昭和南海地震時の津波浸水域・過去の津波の石碑・潮位表等を知る
通学路の危険箇所の地図を作成

実践内容

- PPTで昭和南海地震時の和歌山県各地の津波浸水域図と過去の津波の石碑･潮位表･史蹟堤防等を紹介
- 生徒は和歌山県ＨＰで、東南海・南海地震の津波ハザードマップや土砂災害マップを検索し、それを使って自分の通学路の地図に危険箇所を記入

成果

- 津波浸水域、石碑・潮位表等を知った
- 生徒が自分の通学路上の危険箇所を知り、その地図を作成した

課題：ＰＣ操作不得手な生徒は地図が未完成

【通学路の危険箇所の地図作製中】

工夫した点：生徒にとって実際に役立つものを作ること
苦労した点：パソコン操作が不得手な生徒への対応

担当者：上山容江

保健体育Ⅰ　①応急手当の方法と搬送訓練　②トリアージの学習

目標：災害時での傷病者を医療機関へ搬送するまでの手順を知り、協力者の重要性と適切な方法を理解する

実践内容：

- ●3～4人のグループで徒手搬送法と担架搬送法を実践する。また、毛布と角材を使用し簡易担架を作り安定し搬送できるか確かめる
- ●三角巾を使った骨折・脱臼の固定方法や止血方法を実践する。
- ●トリアージタッグを使用し災害医療の優先順位の重要性を知る

成果：傷病者の立場になって救助する方法を得ることができた

課題：特にありません

苦労・工夫した点

実技を伴うためグループワークで友達と協力させ体験する授業内容をした

担当者：　尾白　賢治

保健体育Ⅱ　①救助方法の訓練　②消火器取り扱い訓練

目標

●家庭にもある身近な道具を使って家具などの下敷きになっている人の救助方法を知る

●安全な消化器の使い方を理解する

実践内容

●自動車のジャッキと角材（梃子）の使い方とを学び、下敷きになっている人の救出法を実践する。

●訓練用の消火器を使って実践する

成果：道具の使い方を知ることができた

課題：生徒が興味をもてるような災害現場のリアリティを持てれば良かった

苦労・工夫した点

飽きずに活動をさせられる授業内容にすること

担当者：　尾白　賢治

芸術Ⅰ　　防災教育カルタ作成

目標：防災カルタの制作を通じて、災害時に想定される事態を標語として予め学習し、遊び・楽しみながら災害に対する知識を身に付けていく

実践内容

①参考例を参照しながら、「あ」～「ん」までの51音の防災に関するカルタを作成する

②カルタ札の文面は参考例を参考にして、絵の部分を作成する

（例　[あ]「あっ揺れだ大事な頭をまず守ろう」）

③下書き用紙に構想を練って、カルタカードに鉛筆で下書きした後、水彩絵の具などで色づけをして仕上げる

④仕上がった「防災教育カルタ」は、施設実習など外部の施設などで実演する

成果

●防災カルタの作成が出来た

●絵の苦手な生徒も前向きに取り組むことが出来た

課題：カルタの標語をどこまで深めることが出来たか

苦労・工夫した点

担当者同士の話し合いの中から、“あそぼうさいカルタ”の存在を教えていただき、普段は書道の授業の担当で、門外漢にもかかわらず実施することに踏み切った

担当者：森　　勝 博

芸術Ⅱ　　被災者への色紙作成

目標：気持ちを込めて作品制作する

実践内容

①阪神大震災の折、特に被害がひどかった長田地区の商店街で、街と心 の復興を相互に祈って、書家“相田みつを”の色紙作品を掲示すること により、住民たちにとって励みになったり、癒しになったりしたということを受けて、“相田みつを”の言葉を色紙に制作、清書する

②筆と墨を使って半紙に練習した後、色紙に清書する

③仕上がった作品は、校内外に展示する

成果：書道作品制作経験のない生徒も前向きに興味を持って取り組んだ

課題：防災カルタの作成との時間配分

苦労・工夫した点

“色紙作品制作”については、施設についても、用具についても揃っているので特に心配はなかったが、書道経験のない生徒が如何に前向きに取り組むことが出来るかが不安だった

担当者：森　　勝 博

英語　災害の防災ポスターを英語版で作成する

目標：本人はもとより、他の人々にも防災意識を高めてもらう。

実践内容

①先ず、日本語で災害に関する標語を作成させる。日本語で作成した標語の中でわからない単語を和英辞典で調べさせる。

②英語版の標語に変換させる。

③標語の内容が一目でわかるようなイラストを考えさせる。

④下書きに従って画用紙にイラスト入りのポスターを作成させる。

成果：実施前と比較して意識が高まった。

課題：人数が105名と多いため、似かよった作品が多くなる。

苦労・工夫した点

丁寧な作品を作ろうと思うほど時間的な制限がきつかった。

担当者：栗山 憲一郎

家庭科Ⅰ　「耐震診断と補強」

目標：地震に強い構造について知識を身につけ、耐震の意識を高める。

実践内容

①倒壊した住宅の原因を考える
②地震に強い家づくりについて考える
③牛乳パックを使っての実習で補強の重要性を知る
④自宅の耐震診断を行う

成果：地震に強い構造（筋かいや合板の役割）について理解し、耐震の意識を高めることができた

課題：生徒が耐震対策を考えるだけでなく実行できるようにしたい

苦労・工夫した点：家の構造や建物の補強に関して、興味・関心のある生徒が少なく少しで　も生徒が身近に感じ、興味を持って取り組める内容になるよう、視聴覚教材や実習を取り入れた

担当者：川村　麻衣

家庭科Ⅱ　「身近でできる防災対策」

目標：自分の部屋の見取り図をかき、危険な所を調べ家具の耐震対策を考える

実践内容

①例であげた部屋の危険な所をさがす
②耐震金具の紹介をする
③自分の部屋の見取り図をかく
④耐震金具を使って、耐震対策を考える
⑤部屋の見取り図に改善を付け加える

成果：自分の部屋で危険な場所を調べ、改善するためにはどうすればよいか考える機会がもてた

課題：生徒が耐震対策を考えるだけでなく、実行できるようにしたい

苦労・工夫した点

最初のプランでは作業の時間が少なかったので、ビデオをなくし作業をする時間を増やしました。自分の部屋に家具が少ない生徒は作業の時間が余ることが多く、関心をひきつけておくことに苦労しました。

担当者：岩上　みほ

情報Ⅰ

①インターネットを利用して地震・津波情報を検索し、地震発生時の状態を予想（津波シミュレーション等）

②流言、風評被害の学習と伝言ゲーム

目標：インターネットを通して防災知識を深める

流言や風評による二次災害を学び情報の信ぴょう性を知る

実践内容

①自分たちが住む地域の津波シミュレーションを通して意見交換

②伝言ゲームから情報の信ぴょう性、信頼性を検討

③Webページから防災に関する情報を調査。

成果

●シミュレーションから災害を身近に感じ取り組めた。

●あふれる情報に疑問の目を持てた

課題：プロジェクターを利用し、班での意見交換を多く行ったが、班により差があった

苦労・工夫した点

災害を身近なものにするため、自分たちの住む地域に関係する教材探しに苦労した。意見交換が活発に行われるよう一つのテーブルを囲み進めた。

担当者：中西　雅重

情報Ⅱ　災害時の情報の入手と発信（災害用伝言ダイヤル171等）の学習・実習

目標：災害時における情報の関わりを理解し、その入手方法や発信手段を身につける。

実践内容

①災害時における情報の入手や被災者の情報ニーズについて意見交換

②災害用伝言ダイヤル171、防災わかやまメール配信サービスなどの利用方法を調べる

成果：

- 被災者の情報ニーズを考え、災害時どのような状況におかれるか意見が出し合えた
- 防災に関わる取り組みが様々な分野で行われていることを知ることができた。

課題：様々なサービスを実際に利用し、体験できれば良かった

苦労・工夫した点

意見交換が活発に行われるように一つのテーブルを囲み進めた。

担当者：中西　雅重

農業Ⅰ　緊急救助技術を身に付ける(ロープワークの訓練)

目標：緊急救助技術を身に付ける(ロープワークの訓練)

実践内容

PCとプロジェクターを使用しながらインターネットの「生活に役立つ学習教材「覚えて使おうロープの結び方」で様々なロープの結び方（ひと結び、ふた結び、巻き結び、もやい結び3種類）を順次進めた。

成果：達成目標に関して、多くの生徒に理解は得られた。

課題：課題戸外の実践（建物からの脱出等）で使用できるロープワークの技術等の研修

苦労・工夫した点：

少し難度のあるロープワークの技術的な習得

担当者：岩本　光弘

農業Ⅱ　①非常持ち出し品・保存食品等の学習と非常食の試食
②救出用器具等の学習とその取り扱い方法

目標：災害に備えてどのような備蓄品を準備しておくべきか理解し、救出用器具の取り扱い方法等について知る

実践内容

①準備した備蓄品（命にかかわるもの、ないと困るもの、あると便利なもの）を紹介しながら説明をする。（プリントにまとめる救出用器具の取り扱い方法等について説明をする。

②α米(白米と五目ご飯)の準備をする。

③プロジェクターを使用しながら地域で実施され防災訓練（県主催）の様子を紹介する。

④α米の試食の感想を書かせる。

成果：達成目標に関して、多くの生徒に理解は得られた。

課題：特にありません

苦労・工夫した点：

授業で使用する資料作成（プリント）で、どのような資料を準備すべきか頭を悩ませた。

担当者：　岩本　光弘

福祉Ⅰ　災害弱者対策について学習・実習

目標：災害弱者に対しての知識を深め、車いすの体験をする

実践内容

- ●災害弱者とはどのような人達をいうのか
- ●災害弱者との日常的なかかわり
- ●障害等に応じた対応（視覚・聴覚障害者など）
- ●実習　車いす体験

成果：生徒が災害弱者対策についての知識を深め、車いすの体験をすることが出来た

課題：日常的な関わりについて、実際の自宅環境について考えることが出来るようになる

苦労・工夫した点

車いす実習を行うにあたり、十分な指導が行えるよう教室内での実習とした

担当者：則村 佐恵

福祉Ⅱ　被災者支援・ボランティアについて学習・考察

目標：被災者支援に関する知識及び、ボランティアに対する関心を深める

実践内容

- ●被災者支援に関する制度の紹介
- ●ボランティアとは何か
- ●ボランティア活動の内容の説明
- ●災害心理について　心のケア・PTSDの説明

成果：被災者支援に関する各種制度があることを知り、ボランティアについての興味を持つことが出来た

課題：自分の趣味や関心のある事柄と連携したボランティアについて考えることが出来るようになる

苦労・工夫した点

阪神淡路大震災が発生した当時の記憶はあるかなど、生徒と話しながら震災が身近なものとして捉えることが出来るように配慮した。

担当者：則村 佐恵

有田川消防署によるAED訓練

目標：AEDを使用できるようになること

実践内容

① 消防署員の説明・実演の後、
班毎に分かれて指導を受ける

② 班の全員がAEDの訓練を受ける

成果：AEDの使用方法を学び、訓練できた

課題：訓練の待ち時間に態度の良くない生徒がいた

苦労・工夫した点：

当初の計画通りに9班を3班に分け3回で実施できなかったことで、訓練の待ち時間に態度の良くない生徒がでたため、2回目は急遽計画変更をしなければならなかったこと

担当者：上山容江

DIG（災害図上訓練）

目標：災害に遭ったと想定して、災害時に重要な場所や津波浸水域・土砂災害危険箇所等を確認した後、どう対応するか具体的に考えること

実践内容

①担当者がDIGとは何かを説明した後、地震・津波の映像を鑑賞

②指定された班毎のテーブルに着席し、リーダーを選出し、以後はリーダーの指示に従い作業を進める。

③透明フィルムを張った都市計画図上に災害時に重要な場所、交通網、河川、津波浸水域、崖崩れ危険箇所等をマジックで記入。

④震発生時やその後自分は何をしているか、すべきかを考えメモ用紙に記入。

⑤班の全員がメモ用紙の内容を発表し、分類し模造紙に添付。

⑥班で話し合い意見をまとめて、リーダーが班の意見を発表。

⑦質疑応答・講評・アンケート

成果：災害に遭ったとき、どう対応するか生徒なりに具体的に考えることができた

課題：真面目に取り組もうとしない生徒への対策

苦労・工夫した点

適当なポリエチレンフィルムを販売している店がなかなか見つからず困った。また、1回目のDIGでは、スクリーンから遠い作業テーブルの生徒が映像を見づらいとのことだったので、2回目ではスクリーンをみる場所と作業テーブルを別にして、映像を見やすく工夫した。

担当者：上山容江

文化祭での展示・起震車体験

目標：生徒、職員、地域住民、保護者等に日頃の授業の成果・様子を見てもらうことと、起震車の体験をしてもらうこと

実践内容

①展示

・9教科の中で成果物のある教科からの作品の展示

・作品のない教科は授業風景の写真を展示

・「ハイスクール防災講座」の外部向け資料の展示等

②起震車の体験

・消防署員の指示に従って揺れを体験（小中高生、大人）

・お客への呼びかけや注意・整列は世話係の生徒が交代で実施

成果：

①展示：防災授業の展示をすることで、生徒、職員、地域住民、保護者等に日頃の授業の成果・様子を知ってもらうことができた

②震車体験：延べ195名もの人々に体験してもらえた

課題：人手不足で展示室係の生徒を置けなかったこと

苦労・工夫した点：起震車体験の時間帯は、時々晴れ間が見えたが雨も降ったので、お客さんがあまり濡れないよう配慮した。

担当者：上山容江

冬期休暇中の課題

1．地域防災マップ作成

目標・実践内容：自分の住む地域の防災マップを実際に歩いて作成することで、災害時の危険箇所を確認し、避難路を確認または考えること

成果：個人により差はあるが、マップ作成で家庭周辺の危険箇所、避難経路を知ったこと

課題：課題提出者が約67％ だったこと

工夫した点：地域防災マップにどの地図を使用するのがよいか、いろいろと試したこと

2．防災マインドマップ

目標・実践内容：9教科で学習・実習・訓練したことを関連づけるため、9教科の防災に関する重要語句のうち関連語句を線で結ぶ

成果：9教科での防災学習のつながりを考えたこと

課題：課題提出者が約67％ だったこと

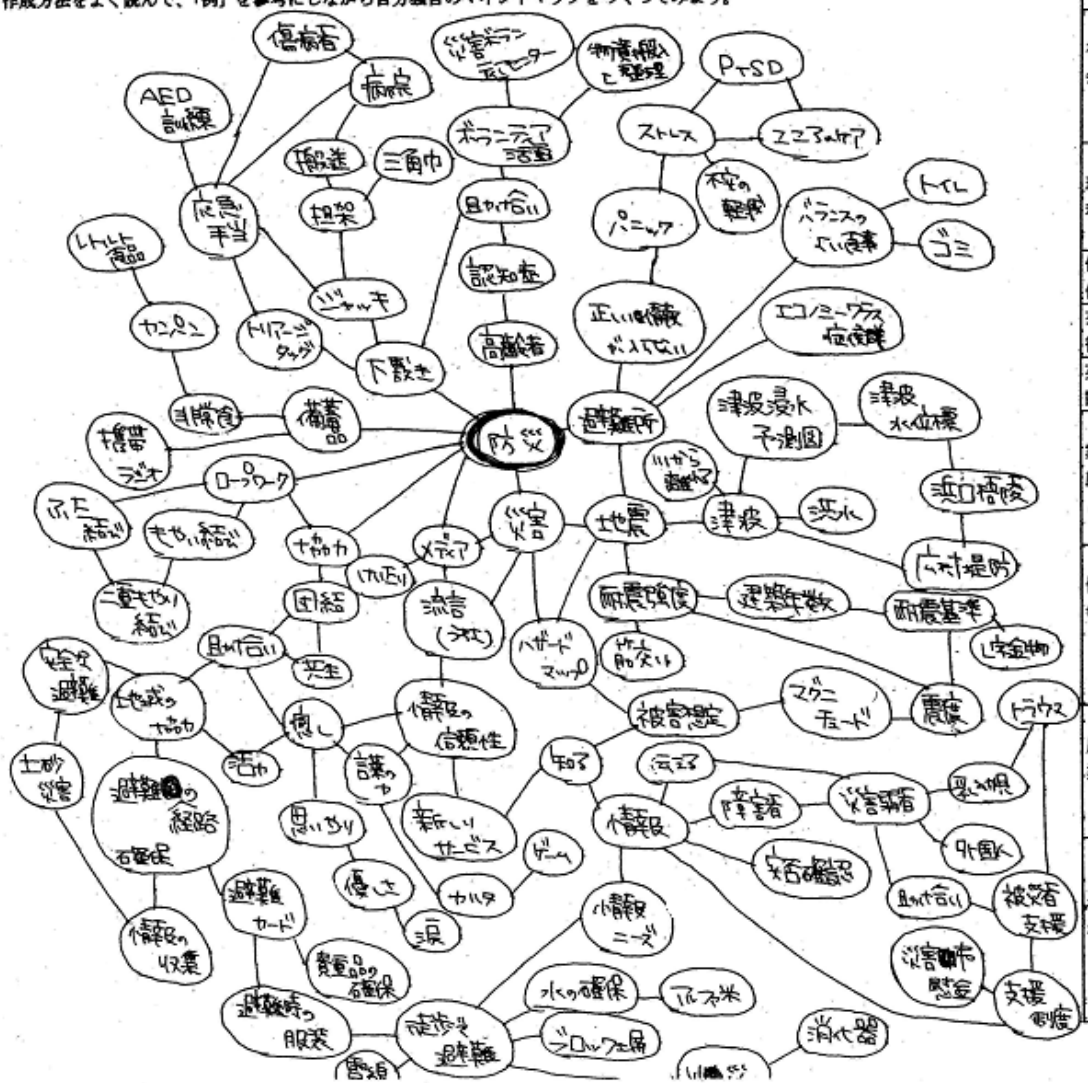
工夫した点：地域防災マップにどの地図を使用するのがよいか、いろいろと試したこと

苦労した点：9教科間の防災教育をどのようにつなげるかは当初からの課題でもあり、中間報告会でもそれを指摘された。いろいろな教材・資料を探し検討したが、生徒の能力に応じてでき、かつ、生徒個人の9教科間のつながりが把握でき、バラエティに富んだものが期待できそうなマインドマップを選択するまでには時間と労力とがかかった。

防災マインドマップ

『ハイスクール防災講座』冬休みの課題2　　簡単な防災『マインドマップ』

作成方法をよく読んで、「例」を参考にしながら自分独自のマインドマップをつくってみよう。



9教科の重要語句	
社会	避難経路の確保、情報の収集、水の確保、ガス器具の始末、地域の協力、避難カード、避難時の服装、トイレ、ゴミ、貴重品の確保、避難勧告、阪神大震災、安全な避難、ブロック塀、電線、川から離れる、避難所、バランスのよい食事、エコノミークラス症候群、火災
理科	地震、津波、マグニチュード、震度、海溝型巨大地震、内陸型直下地震、兵庫県南部地震、スマトラ沖地震、被害想定、津波浸水予測図、土砂災害、ハザードマップ、津波水位標、広村堤防、浜口梧陵、東海・東南海・南海地震
保体	トリアージタッグ、応急手当、担架、三角巾、協力者、搬送、下敷き、ジャッキ、病院、傷病者、AED訓練、消火器
芸術	癒し、カルタ、ゲーム、言葉の力、協力、団結、共生、心情、活力、涙、思いやり、優しさ、助け合い
英語	災害（disaster）,洪水（flood）、雷（lighting）、津波（高潮）（tsunami）（tidalwave）、地滑り（landslide）
家庭	耐震診断、補強、筋交い、合板、ベタ基礎、耐震強度、耐震基準、壁の配置のバランス、吹き抜け、建築年数、家具、ロッキング移動、家具転倒の防止策、家具の重心、低い家具、家具の固定、L字金物、家具の配置、就寝位置、出入口と家具の関係、離れる、
情報	知る（情報入手）、伝える（情報発信）、メディア（新聞、テレビ、ラジオ、携帯電話、インターネット、メール）、情報ニーズ（被害状況の把握、不安の軽減、安否確認、避難所の所在、生活情報、ライフライン）、流言（うわさ）、情報の信頼性・信ぴょう性、新しいサービス（災害伝言ダイヤル、防災わかやま配信サービス）
農業	備蓄品、簡易トイレ、缶、レトルト食品、非常食、携帯ラジオ、カンパン、アルファ米、ハンマー、バール、のこぎり、ジャッキ、ヘリコプター、ロープワーク、ボルトクリッパー、もやい結び、まき結び、ふた結び、二重もやい結び、トラック結び、
福祉	災害弱者、高齢者、障害者（視覚障害者、聴覚障害者、内部障害者、肢体不自由、知的障害者、精神障害者）、乳幼児、外国人、認知症、クロックポジション、情報、隣近所、助け合い、車いす、被災者支援、支援制度、災害弔慰金、ボランティア、ボランティア活動、物資搬入・整理、災害ボランティアセンター、避難所、自立、PTSD（心的外傷後ストレス障害）、こころのケア、トラウマ、ストレス

担当者:上山容江

クロスロード（防災カルタ・すごろく）大会

目標：①クラスのみんなと楽しみながら防災について考え、学ぶこと
②今まで学んできたことの応用問題（クロスロードの内容）を考え、話し合うこと

実践内容：

①クロスロードの使用方法を説明後、班毎に班長、記録係を決めさせ実施
②記録係は「クロスロード勝敗・話し合い記録用プリント」に勝敗結果を記録し、ゲーム終了後に班で話し合う。

成果：クラスのみんなと楽しみながらクロスロードができたこと

課題：時間不足で、防災カルタと防災すごろく「大なまじん」を実施できず、紹介しただけに終わったこと

苦労した点：担当者でクロスロードを105名分用意するのは大変だった

担当者：上山容江

防災講演会

目標：①講演の内容・主旨を理解し、実生活に活かしてもらうこと
②震災体験者である諏訪清二先生との交流

実践内容：**講演テーマは『夢みる防災教育』**

成果：アンケートの結果を見ると生徒の約59％が「大変良かった」、約40％が「良かった」と回答している。特に、震災時の生々しいお話が強く印象に残ったようだ。
自分なり　にできることを何かしたいという生徒もいた。

課題：①貴重な講演会の時間に寝ている生徒がいたこと。
②生徒からの質問が無かったこと
③生徒のアンケートの回収率が約81％だったこと

苦労した点：本校には真面目な生徒も多いが、いわゆる困難校の1つであるため、講演会の講師先生をどなたにお願いするか思案した

担当者：上山容江

小学校への出前授業

目標：①授業の内容を理解し、作品を仕上げてもらうこと（高校で学習したことを伝える）

②実生活に活かしてもらうこと（啓蒙活動 ）

③小学生との交流

実践内容：建築物の耐震補強の学習・牛乳パックの実習

成果：①アンケート結果と授業の様子から児童が大変喜んでくれ、有意義に感じてくれたことがわかった

②出前授業に参加してくれる生徒の募集に多くの先生方が協力してくれた

苦労した点：出前授業に適した生徒を確保すること

担当者：上山容江